

令和8年度開講「演習ⅠA・ⅠB」一覧

※曜日・時限は予定ですので、変更になる場合があります。

科目名		担当者	曜日	時限	テーマ
上代	日本文学演習ⅠA・ⅠB	谷口 雅博	火	2	『古事記』の神話を読む
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	土佐 秀里	木	4	万葉びとの恋
中古	日本文学演習ⅠA・ⅠB	斎藤 菜穂子	火	1	『蜻蛉日記』を読む ——和歌と散文との関係を中心に——
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	竹内 正彦	金	5	『源氏物語』「若紫」巻を読む
中世	日本文学演習ⅠA・ⅠB	野中 哲照	火	3	『平家物語』の一の谷合戦譚を読む
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	岩崎 雅彦	木	3	御伽草子の研究
近世	日本文学演習ⅠA・ⅠB	新任兼任講師	木	2	芭蕉の発句（俳句）を読む
近代	日本文学演習ⅠA・ⅠB	齋藤 樹里	火	3	近現代文学の物語行為についての考察
	日本文学演習ⅠA・ⅠB	新任兼任講師	木	2	映画化・演劇化された近現代文学作品の考察
日本語学演習ⅠA・ⅠB		吉田 永弘	木	5	上代日本語の研究
日本語学演習ⅠA・ⅠB		中山 陽介	月	4	『古今和歌集』古写本の読解
日本語学演習ⅠA・ⅠB		鶴橋 俊宏	金	3	江戸語の研究
日本語学演習ⅠA・ⅠB		三井 はるみ	木	3	方言の研究
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		小堀 光夫	火	3	昔話・伝説の研究史と研究法を学ぶ
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		伊藤 龍平	火	6	口承文芸研究の基礎的な方法を身につける
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		新任兼任講師	水	2	「昔話・伝説」あるいは「民話」の研究史・研究方法を学ぶ
伝承文学演習ⅠA・ⅠB		佐伯 和香子	金	3	昔話の研究史および研究方法を学ぶ

日本文学演習

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】火曜
	【時限】2限
【教員名】谷口 雅博	
【テーマ】『古事記』の神話を読む	
(演習内容)『古事記』上巻に記された神話を対象とし、学生の発表を中心に据えて授業を行う。本文の的確な読みを検討した上で、古代的な論理・信仰・習俗などを踏まえつつ、神話成立の背景や各神話の持つ意味（本来の意味や作品内部における意味）を考え、新たな解釈を試みていく。 各自二回の発表を行う。一回目は写本・テキスト・注釈書類の調査を通して本文批判の徹底、訓読・語釈の検討を行う。二回目は他の神話テキストとの比較、索引類を使つての用例調査、先行研究の確認等を通して、神話内容について様々な角度から検討を加え、独自の見解を導き出すことを目標とする。レポートの書き方を身につけるため、最終的には二回目の発表内容をレポートにまとめてもらうことになる。	
(評価方法) 発表資料・発表内容・質疑応答 50% 学年末レポート 50%	

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】木曜
	【時限】4限
【教員名】土佐 秀里	
【テーマ】万葉びとの恋	
(演習内容) この演習では『万葉集』を読んでゆきます。読むのはみなさん一人一人です。私が読み方を伝授するのではなく、みなさんが自分の頭を使っていたかなくてはなりません。一首一首の歌を細かく読むことが授業の内容であり、授業の目的です。細かく読むというのは、一語一語の意味を考えながら読むということです。ひとつの言葉の意味というものは、そう単純に決められるものではありません。辞書に書いてある意味が正しいとは限りません。この授業では、相聞を中心に恋情を詠む歌を考察していきますが、肝腎なことは、「どのような状況にあつて、どのような気持ちでいるか」を想像することです。その答えはどこにも書いてありません。すべてはみなさんの「想像力」という力にかかっています。その力が試される演習です。万葉集についての特別な知識はなくても問題ありませんが、高校で学習した古典文法の知識は自明の前提になりますので、それをマスターした上で受講していただきたいと思います。	
(評価方法) ①最初の指示を守って、指定された文献を引用しているか。②一定以上の分量の資料を作成しているか。③自分なりの語釈、自分なりの解釈、自分なりの考察が出来ているか。④他人の説の無断盗用はしていないか。⑤指示待ちではなく、主体的に古典文学を研究しようとしているか。以上五点の観点から、演習資料・発表内容・質疑応答を総合的に評価する。発表をしなかった者は0点となり、代替措置はないので注意すること。	

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】火曜
	【時限】1限
【教員名】斎藤 菜穂子	
【テーマ】『蜻蛉日記』を読む——和歌と散文との関係を中心に——	
（演習内容）女流日記文学の嚆矢である『蜻蛉日記』を冒頭から順に読み進める。詠歌に自負するところのあった道綱母によってどのように散文作品が形成されて行ったのか、その道筋を追い、女流文学の成り立ちの動機や意義を考察する。藤原兼家の求婚から結婚成立、新婚期そして夫婦の危機と、和歌を軸にして描かれており、詠歌の変化をも捉えることになる。授業はひとりずつの発表形式（それぞれ1回か2回）で行い、担当学生の発表に続いて議論となる。主体的な発言のない場合は指名する。毎時間何か発言することになると考えてのぞんでほしい。なお、発表者は、担当時の2週間前にテーマの設定が妥当なものかどうか教員のもとに相談に来たうえで、担当時の前週に発表資料を配布すること。全員それを読んだの予習が必要である。 古典文学を専攻する学生でなくても、説明するので心配はない。レポートのテーマ設定や書き方についても指導する。	
（評価方法）出席回数やリアクションペーパーの提出状況、資料・発表の質や熱意、質疑応答における演習への参加度、前期末の中間報告書と年度末のレポートをもって、総合的に評価する。	

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】金曜
	【時限】5限
【教員名】竹内 正彦	
【テーマ】『源氏物語』「若紫」巻を読む	
（演習内容）『源氏物語』「若紫」巻の影印本（写本）を輪読する。発表担当者が、担当する範囲について、翻字をしたうえで、調査、考察したことを資料としてまとめて発表し、質疑に答えつつ議論を深めることによって、本文に対する考え方、注釈書の扱い方、文献調査の方法、読解の視点等を学び、日本古典文学についての基本的な研究方法を修得する。発表担当者が責任を持って発表するのはもちろんであるが、他の受講者の積極的な発言も求める。発表はⅠA／ⅠBそれぞれ1回を予定。各学期末にレポートを課す。	
（評価方法）発表資料・発表内容60％ レポート20％ 授業への取り組み状況20％	

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】火曜
	【時限】3限
【教員名】野中 哲照	
【テーマ】『平家物語』の一の谷合戦譚を読む	
（演習内容）『平家物語』のクライマックスである源平三大合戦（一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦）のうち、一の谷合戦譚（たん）を読みます。絵本や教科書で有名な、義経の坂落とし、忠度最期、敦盛最期が、ここに含まれています。 演習では、『平家物語』の三条本・覚一本の比較検討を行います。異本の比べ読みによって、源平合戦に対する歴史認識の変容を分析することができます。『平家物語』諸本の振れ幅は大きく、それを検討することは当時の歴史認識の幅を知ることにつながります。 合わせて、V字型構想（緊張と弛緩）、串だんご理論（展開と場面）、カメラの〈寄り〉〈引き〉など、物語分析の方法も学びます。これは、他の古典文学、演劇、映画、ドラマの分析にも役立つ、普遍的なまなざしを獲得することを意味します。	
（評価方法）平常点（出席点、授業時のレポートや研究発表） 定期試験は行わない。	

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】木曜
	【時限】3限
【教員名】岩崎 雅彦	
【テーマ】御伽草子の研究	
（演習内容）御伽草子『自剃弁慶（じぞりべんけい）』を扱う。御伽草子は室町時代から江戸時代前期にかけて製作された短篇の絵入りの読み物の総称である。 『自剃弁慶』は武蔵坊弁慶を主人公とする武家物の御伽草子で、弁慶の生い立ちから牛若（源義経）との出会いまでを描く。 授業は個人発表の形で、本文の校訂・語釈・現代語訳を行う。また、以上とは別に影印本を用いて写本を読解する能力を習得する。	
（評価方法）発表 50%、試験 50%。欠席は原則として認めない。筆記試験は影印の読解で、前期と後期の最終授業時に行う。	

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】木曜
	【時限】2限
【教員名】新任兼任講師	
【テーマ】芭蕉の発句（俳句）を読む	
（演習内容）芭蕉の発句（現在でいう俳句のこと）を取り上げ、「五・七・五」という短詩型文学の分析方法について学んでゆく。芭蕉の発句のなかから、前期は和歌以来用いられてきた季語（題）を詠んだ句を、後期は江戸時代に入ってから新しく登場した季語を詠んだ句を選んで発表してもらう。発句を読むためには、和歌で培われてきた「本意」という概念や、季語のイメージ、切字の機能、古典のパロディなどの手法についても学習しなければならないので（これらについては講義で説明を行う）、和歌も視野に入れた演習となる。毎回担当者の発表のあとには、受講者同士による質疑応答を行い、短いリアクションペーパーの提出も求める。	
（評価方法）演習発表と期末レポート 80% 質疑応答やリアクションペーパーなどの取り組み 20%	

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】火曜
	【時限】3限
【教員名】齋藤 樹里	
【テーマ】近現代文学の物語行為についての考察	
（演習内容）明治～昭和までの小説作品を対象に、物語行為の分析を行う演習である。 A：前期は、1人称回想体の〈語り〉について考察し、その機能分析の実践を演習として行う。具体的には夏目漱石「坊っちゃん」のグループ発表を行う。合わせて「坊っちゃん」の先行研究論文の代表的なものを精読して、研究論文の書式、構成の仕方、論点把握の方法について具体的に検討し、論文読解力の養成も行う。 B：後期は、3人称小説の〈語り〉について考察する。候補作品は樋口一葉「たけくらべ」・谷崎潤一郎「刺青」・森鷗外「雁」・芥川龍之介「大導寺信輔の半生」・堀辰雄「聖家族」・川端康成「雪国」・横光利一「微笑」・太宰治「桜桃」・三島由紀夫「詩を書く少年」・古井由吉「杳子」である。これら全てを夏期休暇中に読んで貰った上で、後期の初回に5～6作品を希望者の多い順に選択し、対象作品を決定する。後期の発表では、同時代評・先行論文の批判検討と本文検討を組み合わせるグループ発表を行う。	
（評価方法）A・Bそれぞれ、グループ発表 60%（発表 40%＋質疑応答 15%＋ピア評価 5%）、レポート 40%	

【科目名】日本文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】木曜
	【時限】2限
【教員名】新任兼任講師	
【テーマ】映画化・演劇化された近現代文学作品の考察	
（演習内容）文学とその映画化・演劇化作品を比較することで、〈読解〉の新たな可能性を探ります。授業はグループ発表に続き、全員参加の討議を通じて理解を深める形式です。扱う作品は事前に通読しておくことを推奨します。 前期はまず森鷗外「高瀬舟」を導入として取り上げ、比較のポイントを解説します。次に芥川龍之介「蜘蛛の糸」を、初出や典拠を手がかりにグループ発表を行います。最後に夏目漱石「それから」を、先行研究を参照しながら小説と映画との比較検討を進めます。 後期では、宮沢賢治「風の又三郎」、坂口安吾「桜の森の満開の下」、三島由紀夫「潮騒」、寺山修司「毛皮のマリー」を題材とします。各作品の担当を決めたうえで、前期と同様にグループ発表を行います。研究とは、自ら問いを立て、その問いに対して自ら論証を重ねることで理解を深める営みです。そのためには、答えを求めずにはいられないような問いを持つことが重要です。	
（評価方法）前期・後期ともに、リアクションペーパー 20%、グループ発表 40%、学期末課題レポート 40%	

日本語学演習

【科目名】 日本語学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】 木曜
	【時限】 5 限
【教員名】 吉田 永弘	
【テーマ】 上代日本語の研究	
（演習内容）この演習では、万葉集を読み進めながら、日本語学的な調査と分析の方法を身につけることを目的とする。 はじめに、担当教員が上代日本語の文字・音韻・文法について簡単に説明した後、一首ずつ割り当てるので、自らの担当歌について、どう読めばよいのか、どう訳せばよいのか、調べて考えて資料にまとめて発表する。発表を経てさらに問題を追究し、レポートにまとめる。 以上の作業を通して、上代日本語の理解を深めつつ、日本語学の研究法を学ぶ。あわせて、発表する力・レポートを作成する力を養う。	
（評価方法）発表 50%、レポート 50%	

【科目名】 日本語学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】 月曜
	【時限】 4 限
【教員名】 中山 陽介	
【テーマ】『古今和歌集』古写本の読解	
（演習内容）平安時代に書写された『古今和歌集』の古写本を題材に、古文献の文字や内容を読解する力をつける。博物館などで展示される古典籍や書跡を、内容まで及んで鑑賞できるようになることを目標に据えて、以下のことを学ぶ。 ・崩し字を憶え、字書の引き方を身につけて、文字を正確に読めるようになる。 ・日本語の辞書や文法書の基本的な使い方を身につけて、文献の内容について日本語学の知識による基礎的な解釈を組み立てられるようになる。 ・諸本や注釈書を参照し比較する方法を学び、問題点を見つけ出す洞察力を養う。 ・古典籍や和歌に親しみ、日本の言語文化・文字文化の伝統を体感的に理解する。 具体的には、受講者ごとに割り振られた担当の歌につき、文字の読みを示し、文法・語彙などの語学的な読解に基づく歌の解釈を発表する。受講者どうしの議論の上、文法・語彙・表記などの問題点を見つけ出し、結果をレポートにまとめる。	
（評価方法）発表 50%・レポート 50%	

【科目名】 日本語学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】 金曜
	【時限】 3 限
【教員名】 鶴橋 俊宏	
【テーマ】 江戸語の研究	
（演習内容）現代標準語・共通語の母胎となった近世後期江戸語に関する知識と、文献資料に基づく言語学的研究方法とを身に着けることを目的に、戯作資料をテキストに用い江戸の口頭語の実態を観察する。 前期は江戸語およびその時代的・文化的背景の基礎的な知識と調査方法とを習得することをめざしテキストの講読を行う。後期はテキストの内容を解釈し、その過程で文法・語彙・音韻などの観点から各自テーマを設定し、調査・分析を行いその結果を発表する。発表での質疑をもとに問題点を掘り下げレポートにする。	
（評価方法）発表とレポート 授業への積極性	

【科目名】 日本語学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】 木曜
	【時限】 3 限
【教員名】 三井 はるみ	
【テーマ】 方言の研究	
（演習内容）日本語の地域的バリエーションである「方言」について、その内容と研究法を学ぶ。前期は、基礎的な知識を身につけるためにテキストを講読する。受講者が各自の担当章について報告し、質疑・応答を行う。テキストとして、井上史雄・木部暢子(2016)『はじめて学ぶ方言学』（ミネルヴァ書房）を使用する。後期は、各地の方言を録音して書き起こした、録音文字化資料を取り上げる。各自の担当地点について、記述書や方言辞典、方言地図、日本語諸方言コーパスなどを参照しながら、録音された方言の、音声・アクセント・イントネーション・方言特有語・特有用法・文法（助詞、助動詞、活用等）・表現などの特徴について、調べて発表する。	
（評価方法）発表内容とレポートによって評価する。発表は前後期各 1 回担当し、それぞれについてレポートを提出する。	

伝承文学演習

【科目名】 伝承文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】 火曜
	【時限】 3 限
【教員名】 小堀 光夫	
【テーマ】 昔話・伝説の研究史と研究法を学ぶ	
（演習内容）本講座は、昔話・伝説を中心とした伝承文学の分析、比較等の研究法とフィールドワークの実践を学ぶ事を目的とする。 前期は、教科書『菅江真澄と伝承文学』を使った昔話・伝説の研究史と研究法の講義の後、教員が指示した昔話・伝説の資料について調べ、その成果を口頭発表する。 後期は、夏期休暇等に、受講者の身近（実家や現在住んでいる地域等）に伝承されている昔話・伝説等について調査・研究し、その成果を口頭発表する。 口頭発表は、事典や辞書、概説書、ホームページなどの紹介といったものではなく、研究テーマに関する文献を図書館で読み、実際に自ら伝承地において話の聞き取り調査を行った調査資料に基づき、自分自身の問題意識や考えを明確に表したものが望ましい。 （評価方法）前期、後期の二度の発表と発表資料、授業参加（授業時の質疑等の発言）、授業時の発表をまとめた単位レポート（400 字詰原稿用紙 10 枚以上）によって評価する。	

【科目名】 伝承文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】 火曜
	【時限】 6 限
【教員名】 伊藤 龍平	
【テーマ】 口承文芸研究の基礎的な方法を身に着ける	
（演習内容） 〈前期・ⅠA〉 昔話のタイプあるいはモチーフを概説的に説明したのち、『日本昔話大成』『日本昔話通観』等を使用した調査結果を報告し、先行研究を引用しながら、自説を発表する。 ※上記以外のテーマを扱うときは事前に教員に相談する。 〈後期・ⅠB〉 自分の故郷の伝説もしくは世間話を概説的に説明したのち、市町村史の閲覧やフィールドワークによる調査結果を報告し、先行研究を引用しながら、自説を発表する。 〈前期後期・共通〉 ・発表は、前期（演習ⅠA）・後期（演習ⅠB）、ともに一回ずつ。 ・授業構成は「準備 5 分＋発表 20 分＋質疑応答 15 分＋教員コメント 5 分」を二回。 ・説明ではなく、論述ができるようになるのを最終目的とする。 ・必ず教員による事前指導を受ける。事前指導を行わなかった場合は単位を認めない。 ・引用資料、先行研究を適切に提示する。 ・司会、質疑応答も評価の対象とする。 ・全授業終了後、自身の発表をまとめた 2,000～4,000 字のレポートを提出する。	

(評価方法)

- ・発表 = 60 点 ・各回の質疑応答 = 0～20 点 ※一回ごとに 0～1 点ずつ加点。
- ・司会 = 10 点 ・期末レポート = 10 点

【科目名】 伝承文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】 水曜
	【時限】 2 限
【教員名】 新任兼任講師	
【テーマ】 「昔話・伝説」あるいは「民話」の研究史・研究方法を学ぶ	
(演習内容) 「昔話・伝説」あるいは「民話」といった伝承文学についての研究史・研究方法を学ぶ。前期は、文献、雑誌、論文、調査報告、などを資料とし、明治～平成の研究とその背景を概観する。後期は、自ら現場に足を運んでの調査報告を課する。京王線「代田橋」駅名の由来、横浜市営地下鉄「踊場」駅名の由来など、生活の中に溶け込んでいる「伝承」を素材としてもらってかまわない。前期・後期とも、最初の数回の授業は教員による講義、以後、受講生による発表によって授業を構成する。最低 1 回の発表を必須とする。	
(評価方法) 前期・後期とも、発表内容、プレゼンテーションの工夫、司会・質問など授業への参加状況、および期末レポートによって評価する。	

【科目名】 伝承文学演習ⅠA・ⅠB	【曜日】 金曜
	【時限】 3 限
【教員名】 佐伯 和香子	
【テーマ】 昔話の研究史および研究方法を学ぶ	
(演習内容) 昔話の研究史と研究方法を学ぶことを目的とする。前期も後期も、受講生は全員少なくとも一回は口頭発表を行う。発表者は、異類聾譚、異類女房譚、誕生譚、運命と致富譚、隣の爺譚、継子譚、異郷譚、逃竄譚などの本格昔話から一つを選び、資料集を用いてその分布を調べ、地域差や歴史的な展開を明らかにする。研究発表のための資料集め、レジュメ作りには相当の時間がかかることを覚悟してほしい。また、近代以前の文献や外国の昔話との比較なども視野に入れることを目指す。各自が問題意識を持って参加することが重要である。	
(評価方法) 前期も後期も、口頭発表・質疑応答などの授業参加・期末レポートによって評価する。口頭発表および 3 分の 2 以上の出席が、期末レポート提出の前提条件となる。また、毎回の発表における討議への積極的な参加が全員に求められる。	